勝つ

中小企業のものがたり

伊藤製作所 4

技術者育成の手綱緩めず

中小・ベンチャー・中小政策

モノづくりDNA海外工場で浸透

伊藤製作所はフィリピン工場を軌道に乗せた。国内でもプレス部品加工を中心に業績を伸ばし続けた。社長の伊藤澄夫はかねて「2カ国目の海外進出はあり得ない」と断言していた。そんな伊藤の元に、2011年、インドネシアの財閥アルマダ・グループのオーナーであるデビット・リム氏から合弁会社を設立したいというオファーが入った。

熱心な質問・相談

伊藤がアルマダと知り合ったのは、08年に日本貿易振興機構（ジェトロ）の依頼を受け、インドネシア金型工業会を訪れた時だ。現地の金型企業の経営診断や技術指導のため、アルマダにも訪問した。その時のことを「順送り精密金型について熱心な質問や相談を受けた」と振り返る。

インドネシアでも人材が育ちつつある

合弁相手はアルマダ・グループの自動車部品メーカーであるメカル・アルマダ・ジャヤ（マゲラン市）。「インドネシアは公務員や労働組合との交渉が必要でやりにくい国」との考えから断ろうと思っていたが、熱心な誘いとオーナーの謙虚な人柄などに心を動かされ、ついに合弁の設立に踏み切った。

比から技術者派遣

13年に設立した合弁「イトウセイサクショ・アルマダ」は、メカルのタンブン工場内に工場を設置した。自動プレス機11台と金型加工設備を導入し、総額4億円の投資となった。日本からインドネシアに機械を送る通関手続きも、アルマダの協力を受けて順調に進んだ。インドネシア工場の設置にあたり、伊藤には秘策があった。日本から技術者を送るのではなく、フィリピン工場から技術者4人を送ることだ。フィリピンから派遣することにより、日本人よりも費用を抑えられる。英語力もあり、日本式の教育をしているため技術力も高い。

フィリピン人の熟練技能者の活躍で、13年11月に工場が稼働した翌月には順送り金型が完成した。フィリピンに長年投資し、人材を育て上げた成果が他国で実を結んだ瞬間だった。

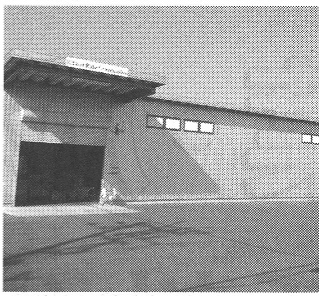
週一で社内勉強会

現在、日本で実績のある顧客のほか、現地の日系大手自動車部品メーカーも開拓している。すでに順送り金型を12型生産し、15年12月期にはプレス部品加工と合わせて売上高約6億円を見込んでいる。

伊藤製作所のモノづくりのDNAは海外にも浸透し、多くの技術者が育っている。伊藤は「技術者が当社の財産」と胸を張る。日本でも技術者育成に手を緩めることなく、6年前から毎週金曜日に1―2時間、金型製作や新技術、品質管理などのレベルアップを図る社内勉強会を続けている。日本から世界へ―。挑戦はこれからも続く。

（敬称略）

（この項おわり。三重支局長・伊藤和泰が担当しました）



4ゲージと提携し物流を効率化（4ゲージが群馬・桐生市に保有する倉庫）

なため、日和さや繊細な商品の取り扱いに慣れていることから提携した。円安基調で海外生産委託品の仕入れ価格が上昇する一方、国内販売価格引き上げは難しいため、物流を効率化する。

佳雅は、首回りの服飾雑貨の企画・卸会社。4ゲージが桐生市に保有する延べ床面積約485平方㍍の倉庫に春夏物の製品の搬入を始めた。商戦期である秋冬物の入荷が始まる7月に稼働する。

現在、中国の杭州（浙江）省や蘇州（江蘇省）、南通（同）などの現地企業20社程度に生産委託しており、この約8割を4ゲージに搬入する。

また桐生市や栃木県足利市での国内生産分、韓

医薬品子会社を吸収

室町ケミ 経営一体化で効率化

【福岡】室町ケミカル（福岡県大牟田市、村山哲朗社長、0944-41-2131）は、子会社で医薬品などを販売しているムロマチテクノス（東京都千代田区）を12月1日付で吸収合併する。経営を一体化して効率化を進める。総務・経理・管理など間接部門の人員を営業部門に振り向けることなどを検討する。

室町ケミカルは医薬品メーカー。グループの人員は250人、13年5月期のグループの売上高は43億円。室町ケミカルとムロマチテクノスは、人員を相互に出向させるといった一体化の取り組みを推し進めている。